

山口大学に生息する野生哺乳動物の多様性調査

—Yammalogy—

代表者 松屋純人（共獣D 2年）
構成員 兵頭宗厳（共獣B 6年） 中原千尋（共獣B 5年） 藤野郁（共獣B 4年）
石川翔子（国際B 2年） 安田博信（医学B 1年）

1. 本プロジェクトの背景と目的

山口大学吉田キャンパスは広大な敷地を有しており、至る所で様々な表情のネコを見ることができる。さらに、自然豊かな吉田キャンパスの環境を考慮すると多種多様な生物が生息していると考えられるが、具体的な動物種は不明である。そこで吉田キャンパス内に生息する野生哺乳動物をターゲットとして、その多様性を明らかにしようと考えた。

また、2013年には山口県内で野生動物にとって身近な存在であるダニから、人間で高い致死率を示すSFTS（重症熱性血小板減少症候群）の原因ウイルスが分離されており、その他にも種々の人獣共通感染症が野生動物の中に潜んでいる。そのことを踏まえ、野生動物との関わり方やそこに潜む危険性について多くの人に知ってもらう必要があると考えた。

以上のことから、山口大学野生哺乳動物図鑑と題して学内生息動物の多様性を紹介するとともに、それらの動物が感染源となりうる感染症や動物との安全な接し方の周知を目的として、プロジェクトの立ち上げを行った。

2. 方法

吉田キャンパス各所においてセンサーカメラを設置し、自動撮影機能を利用して野生動物の撮影を行った。撮影時には注意喚起及び緊急連絡先の標識を掲示し、樹木などが周囲になく設置が難しい場合は写真1のように三角コーンを使用した。場所によっては誘引餌を設置して動物が近づきやすい環境を整えた。誘引餌は荒らされないように通気性の良い虫かごに入れ、周囲の樹木などに固定した。週1回程度を目安にセンサーカメラのSDカードを回収し、データの確認と再設置場所の検討を行った。撮影できた写真について、農林水産省や環境省が公開している野生動物についてのパンフレットや書籍を用いて動物の同定および生態、感染症などの調査を行い、図鑑内容とした。



写真1 センサーカメラの設置（一例）

3. 野生哺乳動物の撮影

2021 年 7 月中旬から 2022 年 3 月上旬にかけてセンサーカメラを設置し、写真の撮影を行った。はじめは学部棟周辺を中心に設置を行ったが、風に揺れる草木や数多く通りかかる学内ネコの写真が撮影されることがほとんどであった（写真 2）。



写真 2 獣医学国際教育研究センター（iCOVER）裏で撮影されたネコ

2021 年 9 月に農学部附属農場の利用申請を提出し、キャンパスの敷地の中でも広大で野生動物の住処となっている可能性の高いエリアでセンサーカメラの設置を行うことができるようになった。農場内に立ち入る際には専用の白衣と長靴を着用して万が一の怪我や咬傷を防止し、動物衛生上のリスクにも注意を払った。農場の森の中や共育の丘周辺を中心として、最終的にネコを含む 9 種類の野生動物の撮影に成功した（写真 3, 4）。



写真 3 ネコ以外で初めて明瞭に撮影できたニホンノウサギ



写真4 共育の丘付近で撮影できたニホンイノシシ

生息していることは支援教員などの話から既に明らかになっていたが撮影が困難であった野生動物の中でも、巣穴らしきほら穴前に辛抱強くセンサーカメラの設置を繰り返すことによって、アカネズミと思われる小型齧歯類の撮影に成功した（写真5）。



写真5 試行錯誤の末に撮影できたアカネズミ

吉田キャンパス内に生息していることが予想される哺乳動物として、コウモリやモグラが挙げられるがその特殊な生態のため、本プロジェクトの期間内では撮影することができなかった。

4. 山口大学野生哺乳動物図鑑の作成

撮影できた写真の動物について、身体的特徴や分布域、似ている動物の識別ポイントを記した書籍や公開物などを参考に種の同定を行った。同定できた動物種について、その生態やエピソード、動物間もしくは人間と動物間で感染しうる感染症についてリストアップし、代表的なものについて記載した（図1）。また、フィールドワークを行う中で発見した動物の痕跡も撮影し、コラムとして掲載した。参考にした文献やwebページを記録し、巻末にリファレンスとして記載した。



図1 山口大学野生哺乳動物図鑑のページ例（ネコ）

5. 今後の活動

山口大学野生哺乳動物図鑑は、学内だけでなく周辺地域の人々にも生息動物や人獣共通感染症について知ってもらうことを目的としている。しかし、その内容や語彙は小学生等には難しいと考えられるため、より内容をシンプルにかつ語彙を易しく改編したものを作成し、子供にも分かりやすく親しみやすい動物図鑑の提供を試みる。完成した改変版動物図鑑は山口大学教育学部附属山口小中学校および特別支援学校、幼稚園に寄贈し、子供たちの教育や興味を育むために利用していただきたいと考えている。